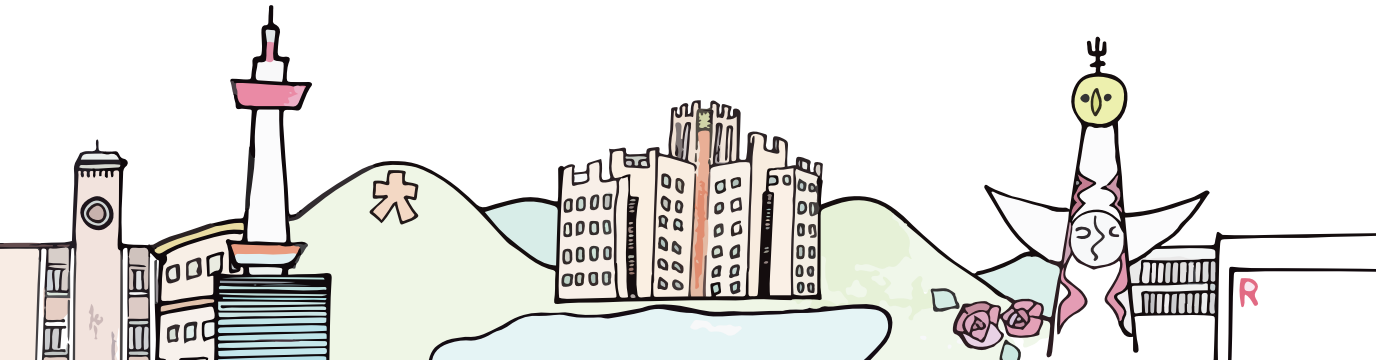
地域と学生をつなぐ

立命館大学サービスラーニングセンター

学生コーディネーター

GUIDEBOOK

R SERVICE LEARNING CENTER
RITSUMEIKAN



こんにちは、
立命館大学サービスラーニングセンターです。

ボランティア活動をしたい人、ボランティアを求める人、両者の縁結びをする機関をボランティアセンターと言います。阪神・淡路大震災を契機に、そうした縁結び役となる「ボランティアコーディネーター」の存在と機能に注目が高まりました。

立命館大学では1999年からボランティアコーディネーター養成プログラムが社会人にも開放された授業として展開され、よりよい地域や社会へと導く担い手の育成に取り組んできています。そして、多方面にわたるネットワーキングが進んだことで2004年にボランティアセンター、2008年にはボランティアセンターが発展した形でサービスラーニングセンターが設置されました。
サービスラーニングセンターは、ボランティア活動の現場において、他者との関わりを通じて学ぶ「自己形成」を重視し、2008年から授業（正課）とその他のプログラム（正課外）を企画し、実施しています。各キャンパスに設置されているサービスラーニングセンターでは、教職員と、公募の後に選考を経てセンターに任命された学生コーディネーター（以下、学生Co.）が運営の担い手となっています。
サービスラーニングという言葉には聞きなじみがないと感じる人も多いでしょう。ここで言うサービスとは、「おまけ」や「接客」という意味ではなく、「他者との関わり」という意味です。

他者との関わりを通じて学ぶことの意義は、例えば「体験学習」や「経験学習」といった概念で意義づけられています。これは外国由来の概念で、ジョン・デューイという米国の哲学者が記した『民主主義と教育』などが参考になります。

これからの時代、選挙権年齢や成人年齢の18歳への引き下げがなされてきていることからも、大学生が自らの社会的役割を認識すること（これをシチズンシップ：市民性の涵養などと言います）は極めて重要です。サービスラーニングセンターは立命館憲章にも示された「正義と倫理をもった地球市民」の育成を使命として、多彩な活動を展開しています。

地域団体をはじめとした
たくさんの方々にとっての、
「学生コーディネーターとだったら、
こんなこともできるかもしれない」という
キッカケになりたいと思い、
このガイドブックを製作しました。

京都・滋賀・大阪にある３つのキャンパスを
拠点に行っている活動と
地域と学生がつながるヒントが
きっかけとなり、
このガイドブックが地域と学生、
互いの魅力を伝え合うための
架け橋となることを願っています。

学生コーディネーター 一同

CONTENTS

02 サービスラーニングセンター紹介
03 まえがき
04 衣笠キャンパス活動紹介
06 びわこ・くさつキャンパス活動紹介
08 大阪いばらきキャンパス活動紹介
10 学生Co.インタビュー
12 学生が地域にかかわるためのヒント
13 地域が学生にかかわるためのヒント
14 地域・社会での活動を通して学ぶ
15 ボランティア情報をお寄せくださる皆様へ

KIC 衣笠キャンパス

2016 CALENDER

ボランティアガイダンス

新入生ガイダンス

学生団体合同企画

地域参加ガイダンス

ボランティア体験プログラム

04 05 06 07 08 09

★学生団体合同企画「ボラフェス」

「ボラフェス」は、学内で活動するボランティアや社会貢献に関わる約20の学生団体が一同に会するイベントです。学生Co.と学生団体が協力して企画・運営を行います。来場した学生にぴったりの学生団体が見つかる、ボランティアとの出会いの場です。

★地域参加ガイダンス「つながるフェス」

「つながるフェス」は、地域で活動したい学生とNPOなどの地域団体をつなぐことを目的とした企画です。まちづくり・国際・こども・災害支援・環境など約20団体にお越しいただきます。学生が地域団体のお話を聞くことで、地域を身近に感じることができ、地域団体にとっては学生のニーズや動向を知る機会になります。

VOICE 01 学生インタビュー

学生Co.の企画に参加してくれた学生にインタビューしました!

産業社会学部 1回生 富田（とみた） 保奈美（ほなみ） さん

Q1 学生Co. の企画に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

大学生活にも慣れてきた 1 回生の 6 月ごろ、教職の先生の勧めもあり、ボランティアをしようと思いました。サービスラーニングセンターへ相談に行き、そこで学生 Co. に出会い、ボランティア体験プログラムに参加しました。ボランティアをすることは今回がはじめてで、不安もありましたが、学生 Co. のサポートのおかげで、安心してボランティアに踏み出すことができました。

Q2 初めてボランティアに参加してみて感じたことを教えてください。

正直にいって、ボランティアをすることはかなり大変なことだと思いました (笑)。
でも、ただ大変なわけではなくて、活動を通じて助け合うことで、人とのつながりの大切さに気づきました。

Q3 ボランティアを通じて、何か身についたことやこれから踏み出したいことはありますか？

初めて会った人たちと仲良くする力です。ボランティアを通じて、同世代の人たちだけでなく、幅広い年代の人たちと出会います。その中で、さまざまな価値観に触れることができました。大学生活では、どんどん新しいことにチャレンジをしていきたいです。もちろん、またボランティアにも参加したいし、自分の視野を広げるために留学にも行ってみたいです。

【参加企画】
ボランティア体験プログラム「ナツボラ」
（受け入れ先：NPO法人 里山ねっと・あやべ）

金閣寺などの観光名所の近く。歴史ある学生の街「京都」に根ざして、NPO などと連携しながら活動を展開中。

学生団体交流企画

ボランティア体験プログラム

「学生ボランティアフォーラム」での活動発表

10　11　12　01　02　03

ボランティア体験プログラム「ナツボラ／アキボラ」

「ナツボラ／アキボラ」は、年間通じて実施しているボランティアに一歩を踏み出すきっかけ作りのプログラムです。京都のNPOや地域団体と連携し、まちづくり・環境・こども・防災などの分野で計10のボランティア体験を実施しています。学生Co.が事前オリエンテーション→ボランティア体験→振り返りまでをサポートします。この企画をきっかけに継続して地域で活動をするようになった学生も多くいます。

VOICE 02 地域団体インタビュー

普段学生を受け入れてくださる地域団体にインタビューしました!

社会福祉法人西陣会
西陣児童館
たかべ
髙部 あゆみ さん

Q1 学生Co.と関わり始めた時期とそのきっかけを教えてください。

2005年にボランティアコーディネーター養成講座（VCTP）の受け入れ団体として、立命館大学のボランティアセンターに関わったことがきっかけで、その後、学生Co.ともつながりができました。特に、3年前くらいからは、学生Co.が頻繁に児童館に来てくれるようになり、立命館大学の学生との距離が近くなりました。

Q2 現在、学生Co.とはどのように関わっていますか？

毎年、「地域参加ガイダンス」や「ボランティア体験プログラム」といった学生Co.の企画を通し、多くの立命館大学生が訪れてくれています。「ボランティア体験プログラム」では、学生Co.が引率をして、初めて西陣会に来る学生を連れてきてくれるので、安心です。年間を通じてのボランティア募集はもちろんのこと、行事ごとなどで特に学生のボランティアを募りたい時も「立命館大学サービスラーニングセンターの学生Co.に！」という存在として頼りにしています。

Q3 ボランティアをしたい学生にメッセージを一言ください。

どういう形であれ、児童館でこどもたちと関わってもらうことは嬉しいですが、ぜひとも、継続的にボランティアしてほしいです。最近の学生の特徴は、1日や数時間などの単発でのボランティアを希望される方が多い印象です。長期的にこどもたちと関わり続けてこそ、こどもたちの成長を見ることができたり、関わり方の変化を感じることができたりと、学生が知ることも多くなり学びにもつながります。

BKC

びわこ・くさつキャンパス

2016 CALENDER

04	05	06	07	08	09
学生団体合同企画 ◇	◇ 新入生ガイダンス		地域参加ガイダンス ◇	ワークキャンプ ★	ボランティア体験プログラム ◇……◇

★ワークキャンプ「高島ワークキャンプ」

「高島ワークキャンプ」は2011年の2月から始まり、現在では2月と8月の年2回開催している宿泊型ボランティアです。滋賀県北西部に位置する準限界集落がある高島市に赴き、現地の方との交流や活動を通して、学生同士で地域課題について考えていきます。夏はお寺の掃除や電柵のつるとりを行い、冬は雪かきを中心に行います。特に活動の中でも、現地の方を含めた食事会や民泊は毎回とても好評で、地域への理解が深まっています。

VOICE 03 学生インタビュー

学生Co.の企画に参加してくれた学生にインタビューしました!

スポーツ健康科学部 1回生 矢島(やじま) 慎也(しんや) さん

Q1 ワークキャンプに参加したきっかけは何ですか？

学生 Co. であり、学部の先輩から誘われたことが参加のきっかけです。それまではボランティアを意識したこともなく、ボランティアとは何かよく分かっていませんでした。

Q2 ワークキャンプに参加してみてどうでしたか？

まず、ボランティアというものが地域の方々との協力の上で成り立っているものだと知りました。ワークキャンプは活動地域がそれぞれに離れているため、僕たちが移動する時は車で送ってくださったり、活動後や民泊などでは高島の名物まで振る舞っていただいたりなど、地域の方々があたたかく受け入れてくださりました。

そして、活動を通じて地域の過疎化という課題に向き合いました。授業内で地域が活性化する話は聞きましたが、簡単に変えることができない現状や、代々受け継がれてきた土地や伝統などがあり、本当にその地域が好きと言っている地域の方のお話など、実際に行ったからこそ様々なことを体感することができました。

Q3 今後はどのようなことに挑戦していきたいですか？

過疎化の地域に人を集めるためには何が必要で、何をすれば人が集まるのかということを、学部の専門でもある「スポーツ」と結びつけて考えていきたいと思っています。

【参加企画】
ワークキャンプ「高島ワークキャンプ」

滋賀県草津市にキャンパスを置き、理系学生を中心に、大学のある地域や滋賀県内の豪雪地帯などで、キャンパスを飛び出すきっかけを創出中。

10	11	12	01	02	03
	地域参加プログラム ★		ワークキャンプ ★		「学生ボランティアフォーラム」での活動発表 ◇

★地域参加プログラム「草津つながろうプロジェクト」

「草津つながろうプロジェクト」は、BKCの周辺の地域である草津市に焦点をあて、学生が気軽に地域に飛び出すことができるような2016年の新企画です。今回は、南草津駅周辺で行われている地域のお祭り「みなくさまつり」にて大学の近隣地域である志津南学区の方と協力し、こども向けのダンボール迷路の運営を行いました。ダンボール迷路のほか、学生たちが余っているダンボールでつくった写真撮影や落書き用の建物もこどもたちから好評で、地域の方と一緒にお祭りを盛り上げることができました。

VOICE 04 地域団体インタビュー

普段学生を受け入れてくださる地域団体にインタビューしました!

洗堰（あらいぜき）レトロカフェ　佐々木（ささき） 和之（かずゆき） さん

Q1 学生Co.との関わりについて教えてください。

学生 Co.との関わりは、2012年の「地域参加ガイダンス」に参加したことがきっかけです。団体にとって、直接学生に会う機会がそれまでなかったため、今では学生スタッフ（ボランティア）確保の生命線ともいえる場となっています。インターネットやチラシを見て参加してくれる方もいますが、団体の活動を理解し、継続的に活動してもらえる中核のスタッフにつながるのは、顔を見て話すことができる機会が一番大きいと感じています。

Q2 学生を受け入れるにあたり、どのようなことを大事にされていますか？

洗堰レトロカフェでは学生スタッフが中心となって運営しているため、とにかく話をよく聞くことを意識しています。学生ならではの発想をどのように活かすことができるか、活動を継続的に参加してもらうにあたって、何がハードルとなっているのか、などですね。これまでに参加してくれていた学生スタッフからは、スタッフ募集の冊子を学生目線で作ってくれました。

Q3 今後の学生Co.に期待することはなんですか？

特に「地域参加ガイダンス」は今後も継続をお願いします。また、大きな企画とは言わずとも、学生と直接会えるプチ企画を実験的にやってみるのも一つではと思っています。
団体としては学生に話せる機会が本当に少ないため、どういう形でも学生と会う・話せる機会があれば、いつでも協力したいです。

OIC

大阪いばらきキャンパス

2016 CALENDER

- 04：◇新入生ガイダンス／地域参加プログラム★
- 05：◇「いばらき×立命館DAY」の企画参加／地域交流企画★
- 06：◇学生団体合同企画／地域参加プログラム★
- 07：地域交流企画★／地域参加プログラム★
- 08：
- 09：◇地域参加ガイダンス

★地域参加プログラム「いばたび。」

「いばたび。」とは、学生Co.と参加者の学生たちが実際に茨木のまちを歩くことで、地域に関心を持ち、日々の生活で気づけなかった茨木の魅力や課題を発見してもらう企画です。地域と学生がつながる第一歩となるように、まちあるきの中で地域の方と交流する場も設けています。そして、学生だけではなく地域の方にもご参加いただき、地元の話などを聞かせていただける時間にもなっています。今まで訪れた場所は茨木別院、茨木神社、バラ公園などさまざまで、特に阪急本通商店街では食べ歩きを行い大好評でした。茨木に興味がある学生や地域の方は、ぜひ参加してください!

VOICE 05 学生インタビュー

学生Co.の企画に参加してくれた学生にインタビューしました!

経営学部 2回生　三好（みよし） 咲椰（さくや） さん

Q1 活動を始めたきっかけはなんですか？

１回生の前期に受講した地域参加学習入門という授業のゲストスピーカーでいらっしゃった茨木市教育委員会・青少年課の方々の話を聞いたのがきっかけです。その後、授業に来たゲストスピーカーともっと話ができる企画、地域交流企画「ソーシャルパワーランチ」（2015 年名称）に参加しました。キャンプを通してこどもと関わるのが楽しそうだと興味が湧き、茨木市のこどもたちのキャンプ生活を支援する活動を始めようと思うことができたのは、直接いろいろなお話が伺えるチャンスをその企画でもらえたからです。

Q2 活動のどんなところにやりがいを感じていますか？

キャンプに来るこどもにあわせて、貴重な体験を与え、素敵な思い出作りのためにキャンプのプログラムを考えています。キャンプが終わる時に小学生が「キャンプが楽しくて帰りたくない」と言ったり、こどものご家族から感謝の手紙をもらったりするときは、何よりもやりがいを感じる瞬間です。キャンプは参加するこどもが成長できるだけでなく、キャンプカウンセラーである大学生も共に成長できる素敵な活動であり、これからも続けていきたいと思います。

【参加企画】
地域交流企画「ソーシャルパワーランチ」

大阪府茨木市に2015年開学。公園に隣接した駅近キャンパス。
大阪府・北摂地域の情報を収集し、活動を拡大中。

★地域交流企画「いばLive」

「いばLive」では、地域のボランティア団体や地域で活躍されている方々、NPO・NGOなどをゲストとしてお招きして、毎回決められたテーマについてゲストとディスカッションし、みんなで楽しみながら考えるワークショップイベントです。地域やボランティアに興味のある学生を対象に実施しています。学生に親しみやすい内容であることを第一に考え、「地域通貨」や「食育」などホットな話題を取り上げています。ワークショップのテーマや手法にもこだわり、沢山の学びや気づきをお届けしています。他大学や他キャンパスからも多数ご参加いただいている人気企画です。

VOICE 06 地域団体インタビュー

普段学生を受け入れてくださる地域団体にインタビューしました!

NPO法人
暮らしづくりネットワーク 北芝
松村（まつむら） 幸裕子（さゆこ） さん

Q1 学生Co.と関わりはじめたのはいつからですか？

2015 年のOIC開学前から学生 Co.が団体訪問に来てくれて以降つながりが深まり、「地域参加ガイダンス」や「地域交流企画」などさまざまな企画に参加させていただきました。そうした中で、社会問題などに関心のある学生に出会うことができました。私自身、学生と接する中で、学生のニーズなどを知ることができて、とても良かったです。

Q2 学生Co.の紹介がきっかけで活動するようになった学生はいますか？

はい！「地域参加ガイダンス」でブースを訪れたことがきっかけで、既に就職が決まっている4回生が、卒業までの間で活動してくれるようになりました。他大学の学生なども集めるなどして、企画に参画してくれています。

Q3 今後、学生Co.に期待していることを教えてください。

これまでは私たちが大学に招いていただくことが多かったですが、私たちが管理・運営する「らいとぴあ 21」に学生たちが来て、社会問題について見て感じてもらう企画があっても面白いと考えています。また、立命館大学だけでなく近隣の他大学と連携した企画が行えたらと考えています。団体としては、赤ちゃんから高齢の方まで困っている人全員が安心して暮らせる地域を目指しています。そのために、幅広い分野でボランティアを受け入れて行きたいので、学生Co.がたくさんの学生をつないでくれることを期待しています。

Interview

人とのつながりと、その先にあるわくわくを。

大学入学を機に福岡から知り合いが誰もいない京都へ。サービスラーニングセンター開講科目「地域参加学習入門」で「京都市未来まちづくり100人委員会」の話を聞いて参加を決めました。いままであんまり話したことのない、ここでの世代の異なる人とのやりとりは新鮮で、最年少の自分は大人の包容力・行動力に驚くばかりでした。大人の作る「出された意見を否定せず、まずは受け入れてくれる場」はいまでも私が目指す理想の居場所の姿です。

ただ、月に１度の集まりでは思い描くことを実現することは難しいので、2回生になって、学生Co.に参加してみることにしたんです。学内に居場所を見つけて、先輩、後輩とつながり、やりとりを重ねることで、大人の人からもらったのとは違う視点を得ることができたと思います。それが面白くて、さらにいろいろなボランティアや地域活動に挑戦し続けることで、新しい人との出会いもたくさん生まれました。そのうち、企画チームのリーダーを任され、合意形成を作る必要性に迫られたんです。

その一つが、学生Co.が地域団体を学生に紹介する「ボラカフェ」での経験です。メンバーから出された意見を受け止めることができなくて、苦しい思いもしました。３回生になってから学内ボランティアサークルと協働で開催した「ボラフェス」では、２回生の時の苦しい経験をバネに、参加サークルのニーズを満たしながら、それらを横につなげて、新しいつながりを作りだすことに成功しました。自分と誰かがつながるだけじゃなく、自分がいることで誰かと誰かをつなげることが嬉しいんだと気がつきました。イベントをきっかけにつながった両方のサークルさんから貰った感謝の言葉は私の財産です。さらに大学の外でも、ご縁が重なって京都市北区・新大宮商店街の「そらたね祭」の代表を務めました。自分がいることで新しいつながりを作ることを意識しながら、1人でメンバー集めからはじめて。最初は苦労したけど、少しずつ協力してくれる人が増えて、祭りは大盛況でした。メンバーの学生や祭りの会場である商店街の人々にも満足していただけたと思います。また、参加してくれた学生や新大宮商店街の方とは今も交流が続いています。

京都に来て３年たった今は、誰も知り合いのいなかった京都に、自分で作った居場所がいくつもあります。むしろ、もっと京都にいたいな、と思うほどです。将来は海外の大学で学び、海外で働くことが夢ですが、卒業後も数年は京都で、これまで作ってきたつながりをさらに広げていきたいと考えています。

Profile プロフィール

ニックネーム：
ぱっぷ

アルバイト：
湯豆腐屋さん

最近驚いたこと：
新幹線の中で知らないおばあちゃんと仲良くなり、箱ごとお菓子をもらったこと

法学部 3回生

まつの　みな
松野 実菜 さん

▲「そらたね祭」当日の様子

一番学びに繋がっているのは自分。でも誰かの役に立ってる。

中学ソフトテニス部県大会で強豪校の敗退を決める大失態をしたんです。このときの顧問の対応を通して、自分の価値観を「伝える」ことで生徒を支援する教師という仕事に魅力を感じました。それに加えて、東日本大震災の時、現地に赴いた友人の体験談を聞いて、ボランティアに興味を持ち始めたんです。

大学生になって１回生の4月に、学生Co.に応募しました。ボランティアへの興味を満たせて、かつ自分の価値観を「伝える」ことができる取り組みだなって思って。最初は学生Co.の活動になじめずうろうろしてた中で、職員さんや仲間と、考えを伝えあい、組織を運営していくノウハウを身につけました。この頃、アルバイトで出会った新しい価値観に翻弄されて、それまで積み上げてきた教職単位を手放し、ノルマを抱えながら七転八倒する自分を支えてくれたのは学生Co.の仲間でした。

念願の東北支援に、復興支援インターンとして参画したのは、２回生の春休みです。そこで関西ほど、東北の食品に対する風評被害が残っていることを実感して、東北の地元企業が作る商品の価値を伝えたい！っていう強烈な思いを持ったんです。その後も東北に行きつつ、関西で出来ることも企画しました。

学生Co.としては大して活動をしてこなかった僕でしたが、同期の誘いで３回生には共同代表に就任しました。ここで初めて学生Co.への帰属意識が生まれて、自分なりの貢献の形を必死に模索したんです。でもうまく後輩たちに伝えられなくて…。「伝える」ことの難しさを思い知りました。

代表を退いて就職活動を始める時に、いわゆる自己分析で「伝える」ことの難しさと面白さに直面してきたこれまでをじっくり振り返りました。企業も視野に就職活動を開始したんですが、その中で「誰かの笑顔が生で見られる環境で働きたい」考えにブレはないことに気づいて、教職単位を持たなくても、教育に携われる就職先に集中して、卒業後の仕事を決めました。

学生Co.への参加、東北での復興支援インターンを経て今、「自分の経験を誰かに伝えることで、自分の中に深く落とし込める」ことに気がつきました。経験を「伝える」ことで深く落とし込めるのは、経験に揺さぶられ新たに作り直した自分の価値観に改めて気が付けるからかもしれません。

Profile プロフィール

ニックネーム：
レミー
アルバイト：
パン屋さん
最近驚いたこと：
スカイダイビングに挑戦して失神したこと

▲「たらこつくろう」のメンバーで

産業社会学部 4回生

はやかわ　ともひろ
早川 友浩 さん

学生が地域にかかわるためのヒント

サービスラーニングセンターでは、ボランティアや地域で活動したい学生に対して、
活動の始め方から実際の活動に参加するまでの道のりをさまざまな形でサポートしています。
ここではピッタリのボランティアや地域活動の探し方について紹介します。

サービスラーニングセンターでの相談の流れ

サービスラーニングセンターは3キャンパスにあります。

1

この、のぼりが目印!

衣笠：有心館 1階
BKC：アドセミナリオ 1階
OIC： A棟1階 AN事務室

2

まずはどんなことがしたいのかを知るために、一緒にお話をしながら「相談受付カード」を記入してもらいます。

3

そのカードをもとに、
数あるボランティアや地域情報から
条件に合うような活動を紹介!

Q1 ボランティアをしたことがないけど大丈夫?

初心者の方でも、経験者の方でも大歓迎!豊富なボランティア情報からあなたに合った活動を紹介します。慣れない活動先への連絡やボランティア保険の加入など、不安なことや気になることも丁寧に説明します。また、3キャンパスで開かれるガイダンスに参加してみるのもオススメです。

Q2 1人で活動に参加するのはちょっと不安…

京都・滋賀・大阪の地域団体と連携して行う「ボランティア体験プログラム」などの企画では、学生Co.が同行するので1人でも安心して参加できます。また学内のボランティアサークルの紹介なども行っています。

Q3 1日だけボランティアするのってアリ?

ボランティアの活動期間は、

- 単発:1日～数日のみの活動
- 短期:1～2週間程度の活動
- 長期:週1回等の継続的活動

に分けて紹介しています。単発はイベント系の活動が多いので、気軽に参加しやすいです。

実際にはこんな相談が…

学生から「防災のボランティアサークルを作りたい」という相談がありました。相談を受けた学生Co.が他のボランティア団体とお話する機会を設けるなど組織化のお手伝いをさせていただき、サークルの設立にこぎつけました。今では市と協力して防災講座を開いたり、他大学との防災ネットワークを結ぶなど、精力的に活動を展開しています。今後も学生Co.と協力し、企画を作っていく予定です。

平日10時～17時
(祝日除く、長期休暇中13～17時)
ボランティア・地域活動相談受付中

そのほかにもサービスラーニングセンター開講科目の受講相談や、活動でのお悩み相談なども受け付けています。
学生Co.が同じ学生の目線で地域とあなたをつなぐ力になります。小さなことでもどうぞお気軽にお声がけください。

地域が学生にかかわるためのヒント

私たちは、立命館大学生のボランティアや地域活動に関する相談にのるのはもちろん、NPOやボランティア団体などの地域で活動されている方々の相談も受け付けています。

「大学生との関わり方」について、学生を迎える地域から日頃よく寄せられる質問をまとめてみました。

Q1 学生は、ボランティアや地域に興味がありますか?

あります!サービスラーニングセンターを通じて、年間1000人ほどの学生が、ボランティアや地域活動に関する企画に参加しています。また、「地域参加」をテーマとする授業では、年間3000人ほどの受講があり、地域への関心の高さが伺えます。

Q2 学生は、なぜボランティアをするのでしょう?

活動自体にやりがいを感じる学生が多くいることに加え、成長・出会い・居場所などを求めています。同世代や多世代と関わることで、価値観を広めたいなど理由はさまざまです。まずは、ボランティアを希望する学生に参加動機を聞いてみることからはじめてみてください。

Q3 学生が活動しやすい時間帯や時期はありますか?

授業が比較的少ない平日の夕方以降、または、土、日曜日です。長期休暇中(2月・3月・8月・9月)は宿泊型ボランティアプログラムを開催するのにオススメです。逆に、テスト期間(前期:7月後半/後期:1月後半)は活動が難しくなります。

Q4 学生向けの広報はどうすればよいでしょうか…

日時、場所、活動内容、頻度などの詳細が一目で分かるように広報をすると、学生の目に留まりやすいです。チラシ・ポスター・HPなどに加え、TwitterなどのSNSを通じて、ボランティアやイベントに参加する学生も多くいます。アルバイトなどの予定調整があり、2ヶ月前が広報をはじめる良いタイミングです。

Q5 継続してボランティアに参加してもらうコツはありますか?

安心して活動できる環境を整えることが大事です。活動開始前にオリエンテーションを行い、活動の目的やルールなどを伝えてください。「いつでも来ていいよ」ではなく活動期間を最初に決めておき、合意があれば更新できるようにすると、活動する学生も迎える地域側も目標や予定を立てやすいです。

実際にはこんな相談が…

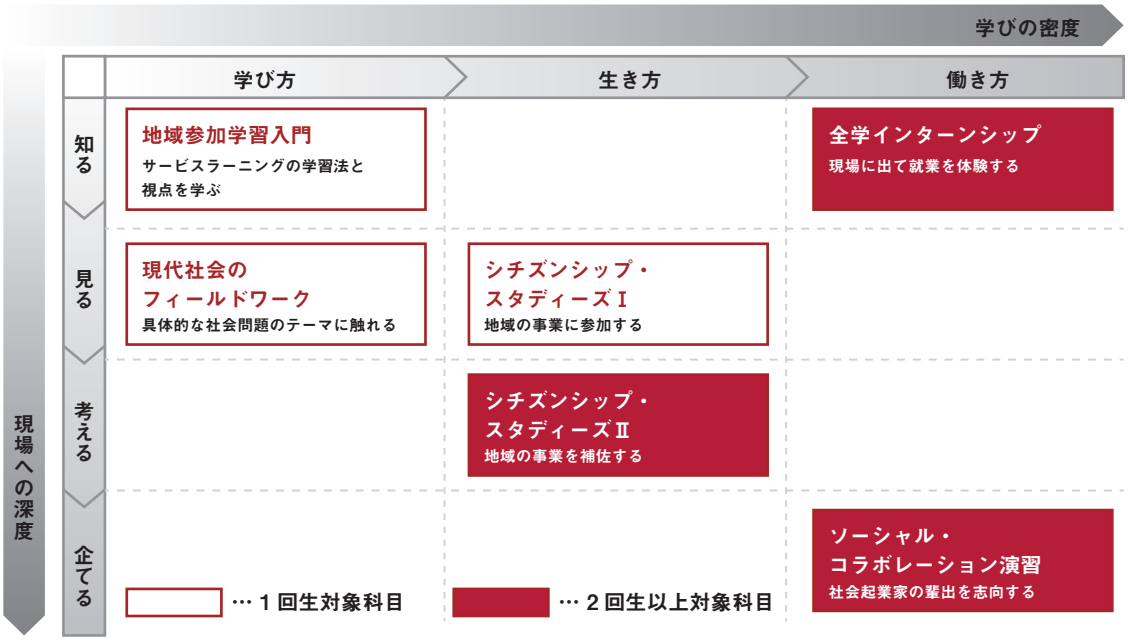
キャンパス近隣の商店街から、「夏まつりの運営手伝いで学生ボランティアを募集したい」という相談が寄せられました。学生Co.がチラシ作成や説明会実施のアドバイスを行い、学生Co.も数年にわたり夏まつりに参加し、継続的に商店街で活動する学生のつながりもできました。2016年には「ボランティア体験プログラム」を受け入れていただき、30人の学生がボランティアを通じて学ぶことができました。

- 募集しているボランティアに学生が集まらない…
- もっと継続的に学生に関わってほしい!
- 新しく学生に関わってほしいけど、どんな活動が良いのかな…

お悩みの地域団体の方々、わたしたち、学生Co.にご相談ください!

地域・社会での活動を通して、大学で学ぶ

サービスラーニングセンターでは、正課外のさまざまな活動と並行して、地域社会での問題解決活動への参加を経験学習の機会として位置づけた授業（正課）プログラムを体系的に展開しています。学生が社会や地域の人びととつながり、働きかけを通して、人間性と専門性を深めることができる学びと成長の場となっています。



VOICE 07·08 受講生の声

法学部 2回生 吉澤（よしざわ） あやね さん

私が参加した大阪府福祉部のプロジェクトは、大学生が民生委員に関する理解を深めるとともに、そのPRを行うことで担い手を確保することが目標でした。見守り活動への同行やサロン運営などを経験し、その中で見つけた課題に関する施策提案を行いました。私はこの経験から、将来福祉の分野で社会に貢献したいという思いが固まり、学部ではそれに関する専攻を学んでいきたいと考えています。

【受講科目】全学インターンシップ

国際関係学部 3回生 金野（こんの） 綾香（あやか） さん

私は普段目に触れることのない、自主映画作品の上映イベントを運営するプロジェクトに参加しました。はじめは何をしたらいいのか分からず、上手くいかないことだらけでした。しかし映画館の館長やイベントの発起人、自主映画作品の監督などの「一番の想い」を聞くことで、全力で想いに応えよう!という気持ちが湧き上がってきました。私にとってこのプロジェクトは、大学の中にいるだけでは知ることのできない、新しい世界を見せてくれた経験です。

【受講科目】シチズンシップ・スタディーズⅠ

ボランティア募集や地域活動情報をお寄せくださる皆様へ

サービスラーニングセンターでは、お寄せいただいた情報を以下の方法で学生に紹介いたします。

1.掲示板やラックでの配架

ポスターやチラシの現物をご持参いただくか、ご郵送ください。
ポスターはサービスラーニングセンター前の掲示板に掲示いたします。
チラシはサービスラーニングセンター内のラックに配架いたします。

2.来室した学生への情報提供

ポスターやチラシで頂いたボランティアや地域情報を、来室した学生の関心や予定にあわせて紹介します。

※募集期限を過ぎたもの、掲示から3ヶ月を過ぎたものにつきましては、順次、廃棄しています。
　引き続き募集を行っているものに関してましては、改めてポスター等をお送りくださいますよう、お願いいたします。
※個別の案件に対して説明会を設ける等の斡旋は行っておりません。

以下に該当するものはお取り扱いができません。

(1) 営利を目的とする団体の行う(または募集する)活動
(2) 政治活動、選挙活動を行う団体の行う(または募集する)活動
(3) 宗教団体の布教活動
(4) 暴力団関係の団体の行う(または募集する)活動
(5) 労働の対価としての報酬がある活動
(6) 学生の人権を損なうおそれが認められる活動
(7) その他サービスラーニングセンターのミッション・ポリシーに反すると判断した活動

ボランティア募集や地域活動情報の広報依頼の受付方法

1. 初めて広報依頼をされる場合

・「団体情報カード」をHPからダウンロードして郵送もしくはE-mailでお送りいただくか、
　サービスラーニングセンターまでご持参ください。
・広報資料は郵送でお送りいただくか、センターまでご持参ください（E-mailでの受付はしておりません）。
・衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスの各センターに情報提供を希望される場合は、それぞれのキャンパスにお送りください。（コピー可）

2.「団体情報カード」を提出済みの場合

・広報資料を郵送でお送りいただくか、センターまでご持参ください。（E-mailでの受付はしておりません。）
・衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスの各センターに情報提供を希望される場合は、それぞれのキャンパスにお送りください。
・団体情報に変更が生じた場合は、「団体情報カード」も併せてお送りください。

詳しくはHPをご覧ください▶　立命館大学サービスラーニングセンター　検索　http://www.ritsumei.ac.jp/slc/

発行：立命館大学サービスラーニングセンター　**企画・編集・制作：**立命館大学サービスラーニングセンター学生コーディネーター

サービスラーニングセンターへの連絡・お問い合わせ先

衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 有心館1階

TEL:075-465-1952　FAX:075-465-1982

Twitter:@gakusei_co_kic

Twitter

びわこ・くさつキャンパス

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 アドセミナリオ1階

TEL:077-561-5910 FAX:077-561-5912

Twitter:@gakusei_co_bkc

Twitter

大阪いばらきキャンパス

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150 A棟1階AN事務室

TEL:072-665-2195 FAX:072-665-2059

Twitter:@gakusei_co_oic

Twitter

R ホームページ　Facebook

MAIL:ritsvc@st.ritsumei.ac.jp